

再 評 価 調 査 書

I 事業概要					
事業名	街路事業				
地区名	都市計画道路 ^{ふしみちよう} 伏見町線				
事業箇所	愛知県清須市 ^{にしびわじま} 西枇杷島町地内				
事業のあらまし	<p>(都)伏見町線は、清須市から名古屋市を経て東海市を結び、(都)名古屋環状2号線などに接続する主要幹線道路であり、尾張地域の南北軸を形成する重要な路線である。</p> <p>また、清須市の都市計画マスタープランにおいては、清須市と周辺市を結ぶ広域幹線交通軸として位置づけられ、さらに、愛知県地域防災計画においては第二次緊急輸送道路として指定されており、防災上も重要な路線である。</p> <p>このうち、当該事業区間については、2車線で整備されているものの慢性的な交通渋滞が発生しており、^{ふたみちよう}二見町交差点から^{びわじまにちようめ}枇杷島二丁目交差点間が主要渋滞区間に指定されているなど、鉄道や河川によって分断されている当該地域においては物流や人の交流などが課題となっている。</p> <p>このため、「尾張地域の南北方向の交通円滑化」「緊急輸送道路の強化」を主な目的として、(都)伏見町線の4車線化整備を実施するものである。</p> <p>なお、隣接する枇杷島橋については特定構造物改築事業※として本事業と同時に名古屋市が施行する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※特定構造物改築事業</p> <p>平成12年東海豪雨を契機に、治水安全向上のため、一級河川庄内川で国土交通省が実施している河川激甚災害対策特別緊急事業であり、東海道新幹線橋梁、東海道本線橋梁及び枇杷島橋梁の架け替えと枇杷島橋上下流の堤防整備を行うもの。</p> </div>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>① 尾張地域の南北方向の交通円滑化</p> <p>② 緊急輸送道路の強化</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事前評価時 (H25)	再評価時 (H30)	変動要因の分析	
	事業期間	H26～H42	H26～H42		
	事業費（億円）	53.3	52.9	精査によるもの	
	経費内訳	工事費	29.1	28.3	精査によるもの
		用補費	22.1	21.5	精査によるもの
その他		2.1	3.1	精査によるもの	
事業内容	現道拡幅整備 延長 560m 幅員 24～35m 4車線	現道拡幅整備 延長 540m 幅員 24～35m 4車線		隣接工区との施行範囲の調整結果によるもの	

II 評価																																																																																																																																																														
①事業の必要性の変化	<p>1) 必要性の変化</p> <p>【事前評価時の状況】</p> <p>①尾張地域の南北方向の交通円滑化 尾張地域における重要な南北軸の一部でありながら、混雑度が 1.88 (H22 センサスペース) であり、慢性的な渋滞が発生している。また、交通量は 28,995 台/日 (H22 センサスペース) であり、二見町交差点から枇杷島二丁目交差点間が主要渋滞区間に指定されていることから、交通円滑化が求められている。</p> <p>②緊急輸送道路の強化 愛知県地域防災計画において第二次緊急輸送道路に指定されているが、橋梁部では車道幅員が 2.75m と狭く、消防車など大型車のすれ違いに支障をきたしている。</p> <p>【再評価時の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 沿線状況に大きな変動は見られないが、H27 センサスペースでは、混雑度は 1.67、交通量は 25,606 台/日となっている。 <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> H22 センサスペースに比べ、H27 センサスペースにおいて混雑度は 0.21 減少 (11%減少)、交通量は 3,389 台/日減少したが、依然として慢性的な渋滞が発生している。 																																																																																																																																																													
	<p>判定</p> <p>B</p> <p>A: 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B: 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C: 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通容量の不足により依然として慢性的な交通渋滞が発生していることや、十分な緊急輸送道路機能が確保されておらず、事業の必要性は依然として高いため。 																																																																																																																																																													
②事業の進捗状況及び見込み	<p>1) 進捗状況</p> <p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> <th>H36</th> <th>H37</th> <th>H38</th> <th>H39</th> <th>H40</th> <th>H41</th> <th>H42</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工程区分</td> <td>調査・設計</td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地補償</td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業費(億円)</td> <td>当初計画</td> <td></td> <td colspan="2">10.0</td> <td colspan="3">16.5</td> <td colspan="4">17.5</td> <td colspan="3">9.3</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td colspan="2">15.3</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="4"></td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>今回計画</td> <td></td> <td colspan="2">15.3</td> <td colspan="3">10.8</td> <td colspan="4">20.7</td> <td colspan="3">6.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗状況</th> </tr> <tr> <th>計画【①】</th> <th>実績【②】</th> <th>達成率(%)【②÷①】</th> <th>計画【③】</th> <th>進捗率(%)【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長(km)</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0%</td> <td>0.54</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>10.0</td> <td>15.3</td> <td>153%</td> <td>52.9</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0%</td> <td>28.3</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>8.8</td> <td>14.0</td> <td>159%</td> <td>21.5</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>1.2</td> <td>1.3</td> <td>108%</td> <td>3.1</td> <td>42%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※用地進捗率(面積ベース)は約 40.0% ※先行予算を含む用地進捗率(面積ベース)は約 46.3%</p> <p>【施工済みの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部分供用済みの区間はなし。 		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	工程区分	調査・設計	←																	用地補償		←																工事									←								→	事業費(億円)	当初計画		10.0		16.5			17.5				9.3			実績		15.3												今回計画		15.3		10.8			20.7				6.1				これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況		計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	進捗率(%)【②÷③】	延長(km)	0.0	0.0	0%	0.54	0%	事業費(億円)	10.0	15.3	153%	52.9	29%	工事費	0.0	0.0	0%	28.3	0%	用補費	8.8	14.0	159%	21.5	65%	その他	1.2	1.3	108%	3.1	42%
		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42																																																																																																																																												
工程区分	調査・設計	←																																																																																																																																																												
	用地補償		←																																																																																																																																																											
	工事									←								→																																																																																																																																												
事業費(億円)	当初計画		10.0		16.5			17.5				9.3																																																																																																																																																		
	実績		15.3																																																																																																																																																											
	今回計画		15.3		10.8			20.7				6.1																																																																																																																																																		
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況																																																																																																																																																										
	計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	進捗率(%)【②÷③】																																																																																																																																																									
延長(km)	0.0	0.0	0%	0.54	0%																																																																																																																																																									
事業費(億円)	10.0	15.3	153%	52.9	29%																																																																																																																																																									
工事費	0.0	0.0	0%	28.3	0%																																																																																																																																																									
用補費	8.8	14.0	159%	21.5	65%																																																																																																																																																									
その他	1.2	1.3	108%	3.1	42%																																																																																																																																																									
2) 未着手又は長期化の理由	<ul style="list-style-type: none"> 完了予定年度に変更なし。 																																																																																																																																																													

3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな阻害要因はないが、用地を取得中であるため、用地買収の完了に向けて引き続き交渉を行っていく。 <p>【今後の見込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 用地補償は事業費ベースで約 65%の進捗状況となっている。今後も引き続き用地取得を進め、平成 33 年度から工事に着手することにより、平成 42 年度に事業完了する見込みである。 																																													
判定	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <p>○これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで事業は順調であり、未買収用地が残っているが、引き続き用地交渉を進めることにより、平成 42 年度までに事業完了が見込めるため。 																																													
1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> H30.2月に（国）マニュアルの改訂及び H27 センサスペースの H42OD が公表されたため、改めて B/C を算出する。 <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</p> <table border="1" data-bbox="370 1140 1422 1659"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>事前評価時 (基準年: H25)</th> <th>再評価時 (基準年: H30)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>事業費</td> <td>36.8</td> <td>40.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持修繕費</td> <td>0.3</td> <td>0.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計(C)</td> <td>37.1</td> <td>41.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">効果 (億円)</td> <td>走行時間短縮便益</td> <td>70.0</td> <td>57.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>走行経費減少便益</td> <td>5.4</td> <td>0.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交通事故減少便益</td> <td>1.0</td> <td>1.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計(B)</td> <td>76.4</td> <td>58.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(参考) 算定要因</td> <td>計画交通量(台/日)</td> <td>43,000</td> <td>36,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果(B/C)</td> <td>2.1</td> <td>1.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したものの。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用便益分析マニュアル（平成 30 年 2 月 国土交通省 道路局 都市局） <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再評価時に貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析を行った結果、B/C は 1.0 を超えている。 	区分		事前評価時 (基準年: H25)	再評価時 (基準年: H30)	備考	費用 (億円)	事業費	36.8	40.7		維持修繕費	0.3	0.5		合計(C)	37.1	41.2		効果 (億円)	走行時間短縮便益	70.0	57.1		走行経費減少便益	5.4	0.6		交通事故減少便益	1.0	1.2		合計(B)	76.4	58.9		(参考) 算定要因	計画交通量(台/日)	43,000	36,000		費用対効果分析結果(B/C)		2.1	1.4	
区分		事前評価時 (基準年: H25)	再評価時 (基準年: H30)	備考																																										
費用 (億円)	事業費	36.8	40.7																																											
	維持修繕費	0.3	0.5																																											
	合計(C)	37.1	41.2																																											
効果 (億円)	走行時間短縮便益	70.0	57.1																																											
	走行経費減少便益	5.4	0.6																																											
	交通事故減少便益	1.0	1.2																																											
	合計(B)	76.4	58.9																																											
	(参考) 算定要因	計画交通量(台/日)	43,000	36,000																																										
費用対効果分析結果(B/C)		2.1	1.4																																											

2) 貨幣価値化困難な効果の変化

【事前評価時の状況】

- ・貨幣価値化困難な効果としては、「①地震・津波対策の推進」において「広域的な防災機能の向上」、「⑦人の交流を支え地域の活性化する基盤整備」において「主要な渋滞箇所の渋滞の緩和」などが期待できる。

【再評価時の状況】

- ・「貨幣価値化困難な効果 評価基準表」に基づき評価した評価値は0.83である。

達成目標(建設部方針)		評価対象の判断	貨幣価値化困難な効果 評価基準表		
			評価項目	基礎点	得点
1 防御力	①地震・津波対策の推進	◎	■ a) 広域的な防災機能の向上が期待できる	MAX3	2
			<input type="checkbox"/> 地震対策アクションプランなど地震防災関連の整備計画に位置付けられた事業に該当する	3	
			■ 緊急輸送道路ネットワークの強化に資する事業に該当する	2	
			<input type="checkbox"/> 緊急輸送道路へのアクセス強化に資する事業に該当する	1	
合計			3	2	
3 成長力	⑦人の交流を支え地域を活性化 化する基盤整備	◎	■ a) 主要な渋滞箇所の渋滞の緩和が期待できる	MAX3	3
			■ 渋滞対策プログラムに位置付けられた事業、または「緊急に対策の検討が必要な踏切」に係る事業に 該当する	3	
			<input type="checkbox"/> 環状道路の整備又は公共交通機関の利用促進(交通結節点・バス路線の渋滞緩和等)に資する事業 に該当する	2	
			<input type="checkbox"/> 渋滞損失時間の県内上位区間(県平均値以上)の区間における渋滞緩和に資する事業に該当する	1	
合計			3	3	
総合計			6	5	
評価値			0.83		

道路・街路事業の事業評価マニュアル(平成28年7月 愛知県建設部都市整備課・道路維持課・道路建設課)

【変動要因の分析】

- ・評価基準表より貨幣価値化困難な効果について検証した結果、評価値については0.6を超えている。

判定

A

- A: 事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。
- B: 事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。
- C: 事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。

【理由】

- ・B/Cは再評価時においても1.0を超えており、貨幣価値化困難な効果の評価値についても0.6を超えているため、事業効果の発現が期待できるため。

III 対応方針(案)

継続

中止: 上記①~③の評価で一つでもC判定があるもの。
継続: 上記以外のもの。

IV 事後評価実施の有無と主な評価内容

■対象(事業完了後5年目) □対象外

【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】

—

【主な評価内容】

- ・交通量(全車、大型車)、旅行速度、混雑度を定量的に評価する。

V 事業評価監視委員会の意見

都市計画道路 伏見町線の対応方針(案) [事業継続]を了承する。

VI 対応方針

事業継続